

# 令和4年度北海道教育大学札幌校教員養成課程 編入学入試試験問題

## 言語・社会教育専攻 国語教育分野

### 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題紙を開かないこと。
- 2 問題紙は表紙を含めて7枚あります。
- 3 問題は問題一から問題六まであります。すべての問題に解答すること。
- 4 解答は指定された解答欄に記入すること。
- 5 受験番号は指定された欄すべてに記入すること。
- 6 解答は縦書きとし、指定された字数にまとめること。句読点や括弧記号等も、一字分とします。
- 7 試験終了後、問題紙すべてを提出すること。
- 8 試験中に問題紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び汚れ等により交換を必要とする場合は、手を挙げて監督者に知らせること。

得点 ( / 300 )

問題一 次の各問いに答えなさい。(合計70点)

問一 次の熟語の読み方をひらがなで書きなさい。(各2点×10問、合計20点)

- ① 挨拶
- ② 矜持
- ③ 憔悴
- ④ 長閑
- ⑤ 咽ぶ
- ⑥ 洗刺
- ⑦ 反駁
- ⑧ 敬虔
- ⑨ 知悉
- ⑩ 法度

【解答欄】

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩

問二 次の二重傍線部のカタカナを漢字に直して書きなさい。(各2点×10問、合計20点)

- ① 今日の父はギゲンがよい。
- ② 故人をシタウ。
- ③ 産業をオコす。
- ④ 危険な実験をカンコウする。
- ⑤ 彼はシンギに厚い人物だ。
- ⑥ 各国公使を招いたコウカン会が開かれる。
- ⑦ 収入のルイケイ額を求める。
- ⑧ 筆者は文章のスイコウを重ねた。
- ⑨ 仲間からソガイされ孤立する。
- ⑩ 物価がトウキする。

【解答欄】

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩



問題三 次の①～⑤に答えなさい。(各6点×5問、合計30点)

- ① 横光利一、川端康成に代表される文学者のグループは何派と呼ばれるか、その一般的な名称を漢字で書きなさい。
- ② 「内海文三」を主人公とする小説で、二葉亭四迷の代表作である言文一致体の作品の名称を書きなさい。
- ③ 詩集『春と修羅』の作者の氏名を漢字で書きなさい。
- ④ 写生主義、万葉調による短歌の革新を唱えた歌人の氏名を漢字で書きなさい。
- ⑤ 『アイヌ神謡集』の編訳者である、北海道出身のアイヌ女性の氏名を漢字で書きなさい。

【解答欄】

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

問題四 次の文章を、一四〇字以上一八〇字以内で要約して書きなさい。(70点)

「家庭で自然に身についた文化資本」と「学校で努力して身につけた文化資本」では、あり方がまるで違う。

そんなことはない、芸術作品の鑑賞能力のようなものは「教養ある家庭で非常に早い時期から正統的文化に触れる機会をもちえた」場合と、成長したあとに学校教育で学んだ場合でも、「よいものはよい」とする判断に違いが出るはずはない、とおっしゃる方がいるかもしれない。

しかし、残念ながら、個々の芸術作品の「よしあし」の判断にはそれほどの差はなくても、芸術作品を「享受」するときの態度にははっきりとした違いが生じるのである。

育った環境で自然に身についた芸術鑑賞眼の持ち主には「余裕」があるのである。「そうとは感じられぬうちに早期からはじまり、ごく若い時期から家庭で行われる体験的習得」を通じて芸術鑑賞の能力を身につけたものと、「遅くからはじまり、系統的で加速された習得形態」を通じて同じ能力を身につけたものでは、作品を前にしたときの「ゆとり」に差が出るのである。

(注)ブルデューはいささか底意地の悪い筆致でこう書いている。

「この第一の習得形態は、文化的正統性を手にしているという確信にともなう自信と、優秀性と同一視されるゆとりを与えてくれる。そして(相対的な)無知状態に安住する余裕と、古い家柄のブルジョワが文化に対して抱いている親しみ深さ(それは彼らとその正統な相続者をもって任じている家族財産のようなものである)に宿る屈託のなさから成る」

「家庭」で習得した文化資本と、「学校」で習得した文化資本の差はこの「ゆとり」、あるいは「屈託のなさ」のうちにある。その「ゆとり」は何よりもまず「無防備」というかたちを取る。芸術作品を前にして「ぼわん」としていられること、この余裕が「育ちの良さ」の刻印なのである。

(次に続く)



問題五 次の『紫式部日記』の一節を読んで、後の問いに答えなさい。(合計50点)

①内裏のうへの、源氏の物語人に読ませたまひつつ聞こしめしけるに、「この人は日本紀をこそ読みたるべけれ。まことに才あるべし」と、のたまはせけるを、<sup>(注1)</sup>ふと推しはかりに、「いみじうなむ才がある」と、殿上人などにいひ散らして、日本紀の御局とぞつれたりける。②いとをかしくぞはべる。このふる里の女の前にてだに、つつみはべるものを、さるところにてすさかし出ではべらむよ。

<sup>(注2)</sup>この式部の丞といふ人の、童にて③書読みはべりし時、聞きならひつつ、かの人はおそう読みとり、忘るるところをも、あやしきまでぞさとくはべりしかば、書に心入れたる親は、「口惜しう、男子にて持たらぬこそ幸ひなかりけれ」とぞ、つねに嘆かれはべりし。

それを、「をのこだに才がりぬる人は、いかにぞや、はなやかならずのみはべるめるよ」と、やうやう人のいふも聞きとめて後、④「といふ文字をだに書きわたしはべらず、いとてづつに、あさましくはべり」。

- 注 1 ふと推しはかりに……その場にいた左衛門の内侍が、ふと当て推量に。  
2 この式部の丞といふ人……この文章の著者の弟。

問一 傍線部①・②の人物は、それぞれ誰であると考えられていますか。漢字で書きなさい。  
(各4点×2問、合計8点)

【解答欄】 ① ②

問二 傍線部③を品詞分解しなさい。単語ごとに横線を入れ、右横に、品詞と、用言の場合は活用の種類、付属語の場合は意味、活用語の場合は活用形も、それぞれ書きなさい。(8点)

【解答欄】

い と を か し く ぞ は べ る

問三 傍線部④は何を意味していますか。漢字二字で書きなさい。(4点)

【解答欄】

問四 傍線部⑤について、次の問いに答えなさい。

(1) 傍線部⑤を現代語に訳しなさい。(10点)

【解答欄】

(2) 「親」が傍線部⑤のように嘆いたのはなぜだと考えられますか。書きなさい。(10点)

【解答欄】

問五 傍線部⑥は、どのような行動を取ることですか。行動の理由とともに詳しく書きなさい。  
(10点)

【解答欄】

問題六 次の季日の詩「春夜洛城聞笛(春夜洛城に笛を聞く)」を読んで、後の問いに答えなさい。  
(合計50点)

誰 家 玉 笛 暗 飛 声  
散 入 春 風 滿 洛 城  
此 夜 曲 中 聞 折 柳  
何 人 不 起 故 園 情

注 1 洛城……洛陽の町。

2 折柳……折楊柳という別離の時に奏する曲。

問一 押韻している字をすべて書き出しなさい。(5点)

【解答欄】

問二 承句について、次の問いに答えなさい。

(1) 書き下し文を書きなさい。(10点)

【解答欄】

(2) 現代語訳を書きなさい。なお、必ず主語を書くこと。(10点)

【解答欄】

問三 結句について、次の問いに答えなさい。

(1) 書き下し文を書きなさい。(10点)

【解答欄】

(2) 現代語訳を書きなさい。(10点)

【解答欄】

問四 中国の詩の形式の一つである近体詩が完成した時代はいつですか。漢字一字で書きなさい。

(5点)

【解答欄】